



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：中国とのエネルギー・金融部門の関係が深まる

湾岸地域の経済・金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

カタールと中国は、イランやシリアで起きている出来事に対し、相反する立場にありながら、エネルギーや金融分野での関係を深めてきている。イラン制裁の強化に伴い、イラン産原油の禁輸やホルムズ海峡封鎖問題などの懸念が起きてきたため、中東湾岸産油国に原油の調達を求めるために、中国の温家宝首相が、2012年1月、カタールを訪問した前後から、両国の関係は一層加速しているようだ。

そこには、中国によるエネルギー資源を求める中国と、欧米の経済停滞の中で、LNG（液化天然ガス）の販売による巨額な資金運用の多様化を求めるカタールと結びつきが深まっている。

● 温家宝首相のカタール訪問

温首相とカタールの指導者、ハマド首長やハマド首相兼外相との会談後、両国間の中で成立した次のような協定や合意事項が明らかにされた。

- ① 投資協力のため二国間で委員会を設置（インフラ、医療、航空、観光分野等）、
- ② 森林保護、砂漠化の防止、野生動植物の保護、
- ③ カタール中央銀行と中国人民銀行との協力、
- ④ カタール金融センター（QFC）と中国銀行監督委員会（CBRC）との間の危機管理協定、
- ⑤ エネルギー分野で提携、例えば、LNG の長期安定的で包括的な提携とカタールによる中国での下流部門への投資

これらの成果が記者会見で発表されたが、温首相は、この時、次のような発言を行っている。「投資問題を論議する時、大事なポイントは金融支援だ・・・両国は投資に伴う金融関連の協力を合意した。カタールから貿易決済で現地通貨（カタール・リアルと中国人民元）を特別な割合で使ったらどうか、との提案があった。私は、この提案は検討に値すると思う」

この発言は、一言で言えば、「人民元がドーハに登場する」ということを意味する、爆弾発言であったと言えよう。他方、カタールは通貨問題で、ドル基軸の米国に対し、戦略的に挑戦しているわけではない。カタールにとって、人民元がアラビア・コーヒーのように香りがよく（1/24 付 Asia Times）、変動する通貨市場で人民元を保有すれば、将来価値が上がることは確かだと感じているからだろう。これまで両国で締結されたエネルギーや金融部門の投資案件は次の通りである。

● 金融投資：カタールの政府系ファンドによる中国向け投資

- ① 2010年6月、カタール投資庁(QIA) (注1)が中国第3位の中国農業銀行の新規株式公開(IPO)で、28億ドル(約2,200億円)を出資した。同行は香港と上海でIPOを実施したが、香港でのIPOでは、総額50億ドル分をQIAなどの機関投資家に割り当てた。湾岸産油国の中では、クウェート投資庁(KIA)も8億ドルの出資を行った。
- ② 2012年8月、QIA傘下の投資会社カタール・ホールディング(QH)が中国の金融機関、中信資本(注2)の株式22.22%を取得。取得価格は不明。
- ③ 2012年10月、中国証券監督管理委員会(CSRC)は、9月にカタール・ホールディングを適格海外機関投資家(QFII)に認定したことを明らかにした。QFIIの免許(注3)取得に基づき、カタールは50億ドル(約4,000億円)の投資を行う方針。

● 上流部門：中国によるカタールにおける石油・ガス開発

現在、中国国有石油大手企業によるカタールでの資源開発の権益の取得状況は次の通り。

① 油田開発

鉱区	中国企業(権益比率%)	その他企業(権益比率%)
Block BC	CNOOC(75)	トータル(25)
Block D	PetroChina(25)	シェル(75)
Block 4	PetroChina(40)	カタール国営石油会社(QP; 40) GDF スエズ(40) 2012年7月、GDF スエズの持分60% のうち40%をPetroChinaに譲渡

② ガス開発

2010年6月、CNPCはロイヤル・ダッチ・シェルと天然ガス田を共同開発することで合意し、CNPC、シェル、QPがガス開発の合弁契約に調印した。契約期間は30年、権益比率はシェルが75%、CNPCが25%、ガス田の運営(オペレーター)はシェルが担当する。稼働後は、CNPCに対し、年間700万トンの供給が計画されている。

● 下流部門

① 中国市場への進出

カタール国営石油会社(QP)傘下のQatar Petroleum International(QPI)は中国浙江省台州市で石油精製及び石化プロジェクトに進出することで合意した。総工費は125億ドル(約1兆円)。新会社の持株比率は、CNPCが51%、シェルとQPIが各々24.5%。稼働後の年間生産量は石油精製量が2,000万トン、エチレン120万トンなど。今回のQPI及びシェルの中国市場への参入は、外国石油会社のうち、これまでのトータル、エクソン・モービル、サウジ・

アラムコに次ぐものである。

② 中国によるカタール産 LNG の長期引取購入

カタールと中国の間で合意されている LNG の長期引取契約は次の通りである。供給は QP 傘下のカタール・ガス社から供給、期間は 25 年。

- ・ CNOOC に対し、2009 年から年間 200 万トンの供給。
- ・ PetroChina(親会社は CNPC)に対し、2011 年から年間 300 万トンの供給。

● その他の関係促進

エネルギーや金融分野の他に、カタールと中国との関係促進を示すいくつかの事例がある。ひとつは、カタール航空による首都ドーハから中国各地(北京、上海、広州、香港)へ直行便が開通していることである。もうひとつは、2011 年 7 月には、中国海軍の第 8 陣護衛艦隊 3 隻で構成される艦隊がカタールを訪問したことである。また、ハマド首長夫人のムーザ妃が理事長を務めるカタール基金(QF)が支援するドーハ郊外の教育都市事業で、イスラム研究学部が主催する経済金融関連の会合が 2011 年 12 月に開催された。中国はこの会合に両国の架け橋となることを狙って、中国在住のイスラム教徒からなる代表団を派遣している。

● 両国の関係に生じた軋み

しかし、両国の関係はエネルギーや金融関係を除けば、順風満帆とは言い難く、いくつかの問題が出てきている。カタールを代表する「小さな国の大きなラッパ」ともいべき衛星放送アル・ジャジーラの存在である。2011 年に放映された英語版のドキュメンタリー“奴隷制度：21 世紀の悪”の中で、世界中の強制労働問題や中国の囚人労働者(注 4)が取り上げられたことに、中国が猛反発し、アル・ジャジーラの北京駐在員のうち、英語担当者の滞在ビザの更新が拒否されるという事件が起きた。

また、エジプト出身でドーハに居住する高名なイスラーム法学者ユースフ・アル＝カルダーウィー師はアル・ジャジーラに出演して、シリアの内戦で人権弾圧や自国民の殺戮行為を行う現体制に対する国連安保理の制裁決議に中国は拒否権を連発している、としてイスラム教徒に中国製品のボイコットを訴えた、という事例もある。

● 今後のカタールと中国の関係

両国の関係で金融とエネルギー部門は、前述の通り、双方の Win-Win の関係にあるが、政治面に目を転じると、順調と言える状況にはない。核開発を進めるイランと親密な同盟国であり、“アラブの春”の動乱の中で、内政不干渉の立場をとり、シリア現体制支持派の中国と、湾岸協力会議(GCC)のメンバーであり、シリア情勢への積極的介入(反体制派への武器供与も含む)姿勢をとるカタールとはその立場は大きく異なっている。

しかし、このような埋めようもない政治的立場の相違を抱えながらも、膨大なエネルギー

資源、特に LNG の安定供給を必要とする中国と、中国市場で資産運用の多様化を求め、今後、LNG の巨大な消費市場としての中国に期待を寄せるカタールとの関係は、欧米経済の停滞とアジアの勢いが続く間、政経分離という形で現在の延長線上を進んでいくことになるだろう。

(注1) カタール投資庁(QIA)

カタールの政府系ファンド。運用資産は約1,000億ドル。

(注2) 中信資本(Citic Capital Holdings)

中国の private equity firm(未公開株式会社への投資を目的とする会社)。2002年、香港に設立。運用資産は44億ドル。カタール・ホールディングの出資後の主要株主は、

中信グループ(中信泰富、中国国際金融など)	42.78 %
中国投資有限責任公司(CIC、中国の政府系 ファンド、運用資産約5,000億ドル)	31.11
カタール・ホールディング	22.22

(注3) 適格海外機関投資家(QF II)の免許

中国における QF II の計画は 2002 年に実施。これまで 188 の組織に QF II の免許が与えられた。この免許に基づき、カタールは 50 億ドルの資金を人民元建て A 株の株式市場と新規株式公開 (IPO)、債権などに投資する方針。各国の中央銀行や政府系ファンド、金融機関は資産の多様化のため中国市場に目を向けている。中国は、10 月、QF II の制度に基づき同国の資本市場への投資をめざす外国の機関投資家の参入基準を引き下げるとともに、これまで QF II の下での投資枠 300 億ドルを 800 億ドルに拡大した。

(注4) 中国の囚人奴隷

アル・ジャジーラ(英語版)が放映した“Slavery: A 21st Century Evil”の中で、中国経済のサクセス・ストーリーの背景には囚人奴隷という闇の秘密がある。数百万人の囚人が、強制労働を強いられている、という内容のドキュメンタリー。アラビア語版はない。アル・ジャジーラ(al-Jazeera)の英語サイトで閲覧可能。